

令和4年度事業報告（2022年度）

自. 令和4年4月 1日
至. 令和5年3月31日

[教育理念]

学生一人ひとりを大切にし、愛情を持ってきめ細やかな指導で専門知識、技能の習得及び人間性豊かな人材を育成する。

[基本方針]

- 1) 社会の公器として国の発展に貢献する人材育成を目指す。
- 2) 健全な資産のもと堅実で安定的な学園経営を目指す。
- 3) 時代の変化を読み、時代のニーズに対応した教育を行う。

[令和4年度基本計画と具体的内容]

1. 教務部

1) 基本計画

留学生数の減少により、桜丘学園全体としての収入減少が免れない状況にあり、入学者の確保と並び、在校生の退学率減少を今まで以上に丁寧に進める。

2) 具体的内容

(1) 学生満足度の向上、退学防止策

① 行事の充実

* イベントの再検討。コロナ禍で可能なイベントも検討し、中止ではなく何か代替案を準備。

(結果報告)

感染対策を十分に検討し、親睦会、オリエンテーション旅行、パリ研修旅行などを実施することができた。

* 学年を超えたイベント感のある授業実施。

(結果報告)

教室では密集してしまうため、今年度は実施できなかった。

② 学生面談の実施、キャリアサポート

* 前期、後期開始時の面談に加え、問題がある場合、就職関連など、必要に応じて学生の状況をきめ細やかに把握する面談を行う。

(結果報告)

手厚いフォローを望む学生が多く、各担任は苦労しているが、家族との連携を含め対応してくれている。

* 就職活動の動機付けやサポートを、キャリアサポートセンターを中心に充実させる

ビジネス科は1年次10月から授業を開始、クリエイト科は12月から開始する。

就職希望者就職率を上げるために、就職先探しを全教員が常に行い、学生へ案内する。

(結果報告)

自発的に就職活動に向き合える学生は少ないが、各担当者が真摯に対応してくれている。

(2) 教育内容及びカリキュラムの充実

DX（デジタルトランスフォーメーション）化を見据えた、カリキュラムの推進。

IT能力を向上し、就職に役立ち且つ、学生のニーズの高いカリキュラムへ移行し、引き続き環境を整える。

① 選択授業にeコマースを導入する。

(結果報告)

ネットショップを立上げ、まち飛びフェスタ後に、商品を販売することができた。

② SNS (Instagram) 活用の授業を選択科目、ビジネス科、クリエイト科1年の授業にも幅広く組み込み、就職活動やその後のビジネスに役立つスキルを身に付けさせる。

(結果報告)

就職活動でのアピールに役立っている。

(3) デジタル専門課程、国際情報ビジネス科

① プログラミングのカリキュラムを1年次は基礎を2年次では復習と応用。就職に役立つ成果物として学習内容の可視化のためのWEBサイトを立ち上げる。

③ eコマースの授業ではネットショップ実務士（補）の資格取得を目指す内容とする。

(結果報告)

ネットショップ実務士（補）18人中17名合格。

3) 今後の課題

経営と教育のイノベーション

- ① 少人数制で黒字化できる体制の構築
- ② 求める学生像の明確化
- ③ 多学科制から総合クラスへの移行
- ④ 内部進学 of 柔軟性と高度教育の深化

(結果報告)

2024年度に向けて方向性を決めていきたい。

(結果報告)

就職状況

本科 79%、国際 65%

技術科 4名/5名 80%内定

帽子デザイナー1名、販売職3名、1名未定 ブランド立上げを希望

FC2 就職希望者就職率 7名/7名 100% 8名/15名進学 53% (7名/15名就職47%)
縫製職2名、生産管理1名、パイヤー1名、販売職2名、事務職1名

FB2 就職希望者就職率 8名/12名就職 67% 12名全員販売職 4名はバイトスタート

JB2 就職希望者就職率 11名/17名 (特定活動申請6名) 全20名 (2名進学、1名帰国)
内定取得者…11名/17名 (内定率65%)
申請就労資格取得…0名 (取得率0%)

3/31現在 ホテル、外食、コンビニ、小売り、介護、金属工場など

2. 企画部

1) 基本計画

コロナ禍によるファッション業界の産業構造の変化と入国制限による留学生の減少に対応した学生募集施策を講じる。

2) 具体的内容

(1) ファッション専門課程の学生募集

- ① 募集エリアの拡大。1都6県に加え、静岡、長野、山梨、新潟、福島を追加
*指定校及びリスティング、リマーケティング配信エリア拡大。

(結果報告)

- ・指定校数1,212校(前年比+223校)
→静岡、長野、山梨、新潟、福島の指定校の選出を実施
- ・リスティング、リマーケティング
→配信エリアを従来の1都6県に加え、静岡、長野、山梨、新潟、福島まで拡大
- ・1都6県以外からの入学者
→3名 静岡・新潟・沖縄(前年1名、前々年5名)

- ② ICT化推進による情報発信の強化

*Instagramによる情報発信の強化

(結果報告)

- ・2022年4月～2023年3月の1年間でフォロワー数が3,918人増加
2,019フォロワーから5,937フォロワーになった(増加率294%)

*ホームページのリニューアル(費用180万円)

(結果報告)

- ・ユーザーが使用するデバイスの画面サイズに応じて表示を最適化するレスポンシブデザインの採用→ユーザーの利便性向上
- ・コンテンツの構成を整理し階層をシンプルにした→ユーザーの利便性向上
- ・業者を介さず桜丘側で新規投稿・追記・修正が可能な部分を増やし、運用の利便性と情報の即時性を高めた。また副次的にランニングコストの圧縮

- ③ 高校生の利便性を第一優先にしたオープンキャンパスの開催

*来校時間自由の「個別相談&見学会」及び「体験実習」を年66回開催。

(結果報告)

- ・66回実施・131名来校(前年68回・120名、前々年77回・86名)

(2) デジタル専門課程の学生募集

- ① 現状把握の情報収集

日本語学校を訪問し卒業年次の留学生の在籍状況をリアルタイムに把握し、対策を立てる。

対策例) 指定校推薦制度(選考料2万円免除、入学金5万円免除)

紹介制度(紹介者出願時に5万円の紹介料)

(結果報告)

- ・都内の日本語学校を中心に延べ141校訪問
- ・指定校推薦制度(選考料2万円免除、入学金10万円免除)
→2022年5月9日～2023年3月15日まで実施
- ・紹介制度(紹介者出願時に5万円の紹介料)

- ② 入試時期の弾力化

出願時期を6月に前倒し、入試日程を事前に設定せず個々に応じた弾力的な運用。

(結果報告)

- ・5月9日より出願開始

(3) 定量目標

① 出願目標

*ファッション専門課程35名 *デジタル専門課程15名

(結果報告)

- ・ファッション専門課程35名→29名 (▲6名)
- ・デジタル専門課程15名→2名 (▲13名)

②事業予算

*11,000,000円

(結果報告)

- ・11,000,000円→11,277,059円

*内訳	リスティング及びリマーケティング	4,500,000円
	ホームページリニューアル関連	2,100,000円
	校内、会場での学校説明会(ガイダンス)	1,700,000円
	学校案内、募集要項、フライヤー等	1,200,000円
	Instagram関連	460,000円
	その他及び予備費	1,040,000円

3. 事務部

1) 基本計画

中長期的視野での経営の実践

2) 具体的内容

(1) 中長期計画の策定

① 収支予算案(5年)

中長期的な収支予算案を策定することにより、学生数、経費などを具体的に数値化し、課題を明確化することで早期に対策を立てる。

(結果報告)

現在予算案は、次年度分を単年で作成しているが、学校会計においても中長期的な予算を組み、今後の展開を考えていかなければならないと思う。学生数や経費の金額を中長期的に数値化することでより具体化した問題点もわかり、対策も早期に立てやすくなると思う。

中長期事業計画書の作成を実施した。決算終了後の数字を反映させた上で、前年からの5年間の予算を修正し今後の課題を検討する。

② 中長期資金繰り表(5年)

中長期収支予算表に連動する資金繰り表の策定。学生数の変動、飯田橋中央地区再開発に伴う移転費用など学納金だけでは賅いきれない年度も発生する。資金需要に対応する内部留保は中長期的な資産を資金繰り表の策定により予測する。

(結果報告)

上記①にともない、中長期予算案に連動する資金繰り表の作成を行う。平常年については学納金の前受等により資金繰り表はそれほど必要とされない。

しかし10年後くらいには飯田橋中央地区再開発にともなう移転も想定されるため資金計画の必要性は益々増えてくる。また現在のコロナ禍において、外国人留学生の入学が極端に減少していることを考え、本科だけの学生数だけでは運営が成り立っていかない。

学校法人という性質上、単年度で考えれば、入金の前受けでありその資金を翌年3月までに取り崩していく形をとることになっているが、学生数の変動により学納金だけではまかないきれない年度も出てくるため、その資金的な内部留保は中長期における試算を資金繰り表という形で予想していかなければならない。

中長期資金繰り表の作成を実施した。決算終了後の数字を反映させた上で、前年からの5年間の資金繰りを修正し今後の資金調達と再開発事業に向けた資金需要の補助資料とする。

(2) 国際情報ビジネス科のIT環境の更新

*パソコン (Windows 10) 及びプロジェクターの更新。

*w i f i の高速、安定化。中長期計画の策定

(結果報告)

デジタル専門課程国際情報ビジネス科の新設に伴い、現在使用している windows 8.1 から windows 10 にパソコンを入れ替え、それに伴い2号館全館内での wi-fi 設備の環境を整え、各クラスに最新のプロジェクターを設置し授業の効率化を図るなど改善をし、留学生が国際社会や日本企業で活躍できる人材育成を強化していく授業体制を整える。

東京都私学財団の教育設備助成金制度を活用し、デジタル専門課程国際情報ビジネス科全員分の新規PCを導入した。それに伴い通信設備の環境を整えるために全館に Wi-Fi 設備を導入した。

4. 学園本部

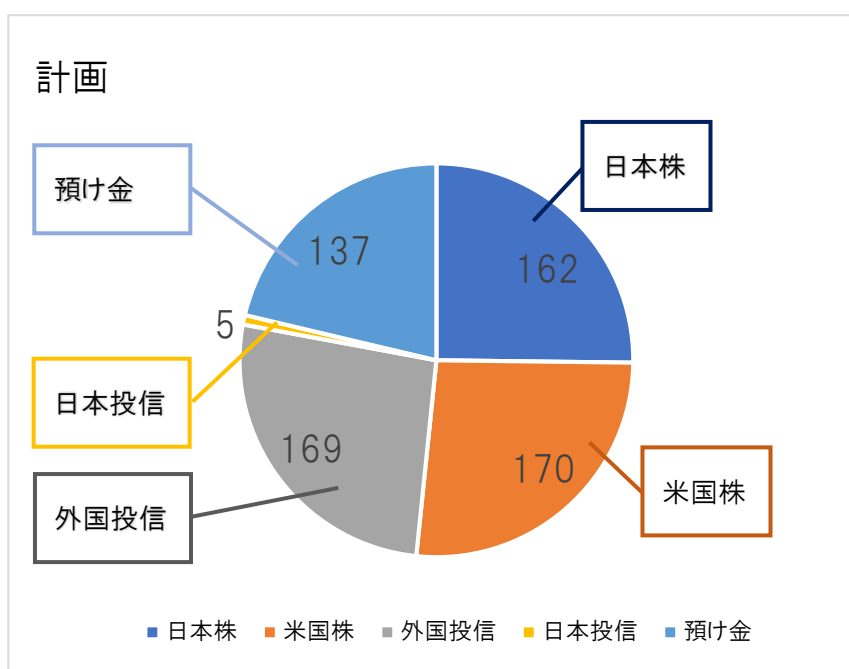
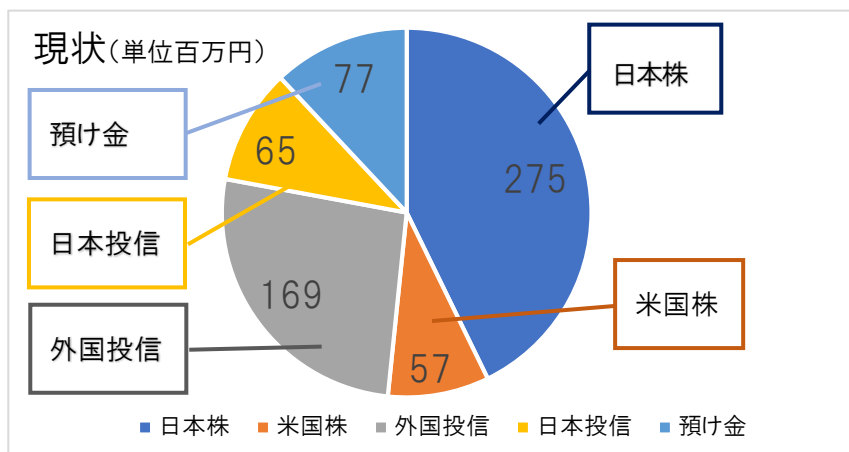
1) 基本計画

- (1) 資産ポートフォリオを変更し、効率的な資産運用で高いパフォーマンスを出す
- (2) 再開発における権利変換の多彩なスキームを検討し、学園の安定経営につなげる
- (3) 新しい分野の開拓

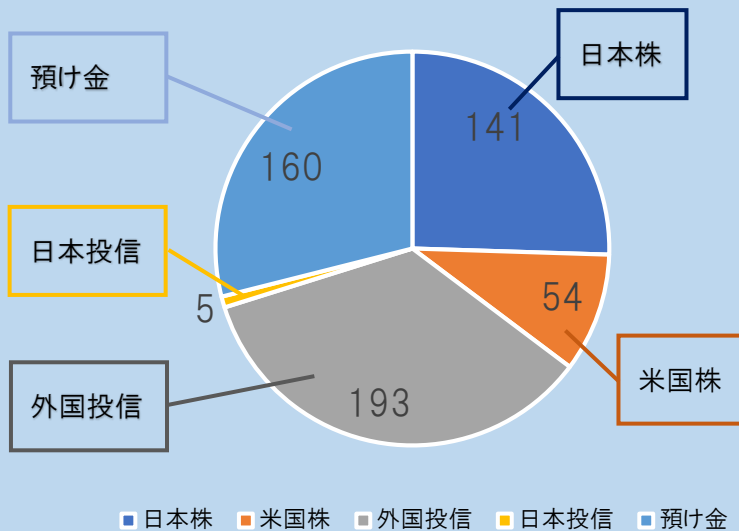
2) 具体的内容

(1) 資産ポートフォリオの変更

日本株及び日本株投資信託を売却し、米国株で中長期に運用する



(結果報告)



(結果報告)

米国株投資は米国のインフレ圧力が強く、FRBの利上げの幅の観測が難しく、積極的に投資できなかった。また、短期のキャピタルゲインを目的とした情報通信系の投資信託に30,000(千)投資したことにより、外国投信の残高が増加した。

(2) 再開発での権利変換スキーム検討

- ① 新ビル4階育成用途フロアーへファッション専門課程移転+2号館デジタル専門課程
- ② 新ビル4階育成用途フロアーへ全て移転+2号館建替え賃貸物件へ
- ③ 新ビル賃貸床へ権利変換し賃料収入+2号館建替えファッション専門課程

(結果報告)

飯田橋駅中央地区再開発による桜丘学園のメリットが明確に見いだせていない。学園規模を縮小しない方向に進めた場合、1号館の土地、建物の売却額では同地区での同規模の土地、建物の取得は難しく、他地区への移転の可能性が高い。他地区では交通利便性は低下し、歴史と伝統のある現在の地区を離れることは学園にとって最良の選択とはいえない。計画反対も視野に継続して交渉していきたい。

(3) 新しい分野の開拓

(結果報告)

国際情報ビジネス科の中にソーシャルビジネスコースの設置を検討
株式会社サンパワー社と社会の課題をビジネスの手法で解決する事業の起業をサポートする
ソーシャルビジネスコースの設置を検討。社会貢献的意義は共有するが、学生募集方法に課題あり。現在保留中。

以上